世界遺産登録前の飛鳥を訪ねて



牽牛子塚古墳
石の都を築いた石好きの斉明天皇の古墳だと思われます。巨石を刳り抜いた墳墓に築造当時に復元されている八角三段の古墳です。墳丘前に横口式石棺が見つかり「皇孫太田皇女を陵の前の墓に葬す」の日本書紀の記述に一致する。

倭（やまと）は「国のまほろば　たたなずく青垣山隠れる倭しうるわし」（大和は国でもっとも優れた土地で、青い垣根のような山にこもる大和は美しい）。

古事記には、倭健命の歌とされるが大和に住む人々がこの地を褒めたたえた歌で飛鳥ののぞかな原風景そのものと感じる地を訪ねました。

前660年に神武天皇が八咫烏の案内で紀ノ國から攻め込んで統治されましたが、大王家は他の豪族和珥（ワニ）・物部・大伴・蘇我・巨勢・葛城・平群・久米氏の上に立っており、盤石なものでなく、権力・大王位をめぐって抗争が繰り返された地でもありました。天武天皇の時代になり、やっと唐の律令制をとり、人臣はすべて天皇の下という政治体制が確定した地でもありました。

雄略大王時代には葛城氏を滅し、また王位継承者を殺害。武烈大王の時代には平群氏を滅亡させ、大王に承継者がいなかったために政治の混乱が続くなか、大伴金村が越前より、507年に継体大王を迎えましたが、なかなか飛鳥に入ることができませんでした。

武烈天皇の妹の手白香皇女（タシラカノヒメミコ）を妃に迎え、子どもが欽明天皇となり、やっと安定するとみられた政局が、任那を百済に割譲した責任をとり、大伴金村が失脚。

また、物部尾輿と蘇我稲目との間に仏教伝来により対立し、敏達天皇の代になっても物部守屋と蘇我馬子が対立。実際は、皇位継承巡っての対立と思われますが、蘇我馬子が物部守屋を滅ぼします。用明天皇崩御の後、崇峻天皇が継ぎますが、馬子との軋轢で暗殺されます。



岩屋山古墳
7世紀代の方墳と推定されています。自然石を組んだ石舞台古墳と異なり、切り石で整然と組まれた見事な石積みの横穴式石室で内部は開放されており、外観から円墳のように見えますが八角墳との指摘もあり、斉明天皇陵墓という意見もあります。



平田梅山古墳
宮内庁より欽明天皇陵「檜隈坂合陵」と治定されている明日香村唯一の前方後円墳です。しかし五条野丸山古墳の方が堅塩媛（キタシヒメ）と合葬したと有力視されています。



天武・持統天皇陵遥拝所
律令制の基礎を築いた天武・持統天皇は古事記・日本書紀の編纂の元を作った。



石舞台古墳
七世紀初頭築造とされ、626年に死去した蘇我馬子が被葬者ともされていますが、特定されていません。石舞台の名の由来は、昔狐が女性に化けて踊った話や旅の芸人が舞台で演じたと伝わっているそうですが、定かではありません。自然石を組み合わせた横穴式石室なので内部を拝観することができますが形状不明の墳墓です。馬子の墳墓とするならば、蘇我氏が滅亡したおり、辱しめるため上部の土を撤去したとしたら納得できるかも知れません。



吉備姫王墓
欽明天皇陵に近接する吉備姫王墓の吉備姫王は欽明天皇の孫にあたり斉明・孝徳天皇の母であり、天智・天武天皇の祖母にあたります。また柵内には猿石があります。



高松塚古墳
飛鳥美人の壁画や四神図で有名な円墳です。被葬者は天武天皇の皇子などが有力視されており、天武・持統天皇陵・高松塚古墳・文徳天皇陵・キトラ古墳と藤原京より真直ぐ南に配置されています。



野口王墓古墳
天武・持統天皇陵、前方後円墳が主流の王墓から終末期の八角形墳五段の列石に覆われた古墳です。鎌倉時代の盗掘資料により、天武・持統天皇陵と確定された数少ない王墓です。持統天皇は火葬され合葬されたとする日本書紀と合致し、銀製の骨壺に納められています。宮内庁は檜隈大内陵として治定が確実視されている数少ない墳墓です。1975年には内部調査の結果とも一致します。



千田明 さん
2011年5月に電気工事業、電気通信工事業を業務とする『株式会社GNR』を設立。現在は退任。



談山神社
談山神社の由来は中大兄皇子と藤原鎌足が蹴鞠を通じて大化改新の談合をこの多武峰で行ったとされ、談山（かたらいのやま）より命名された。明治の神仏分離により、神社になりましたが、鎌足の供養塔が残されている珍しい神社です。



談山神社の十三重の塔
藤原鎌足の長男である僧定恵が建立した藤原鎌足供養の塔遺骨は1934年に発見された高槻市奈佐原の阿武山古墳から移したといわれますが、阿武山発掘調査の結果遺骨はほぼ鎌足とされています。



本薬師寺
本薬師寺は、680年天武天皇が皇后（後の持統天皇）の病気平癒を祈念して発願されましたが完成をみず天武天皇が崩御されましたが698年に完成したと伝えられています。寺域は右京八条三坊を占めていたようですが、平城京遷都に伴い六条二坊の薬師寺の現在地に移転しました。



本薬師寺礎石



藤原京跡
藤原京は694年から710年までの16年間、持統・文部・元明の三代の天皇が治めた、東西・南北を碁盤状にした唐の都を参考にした条坊制を日本で初めて導入した計画都市で約5㎞四方の大きさを誇り、建物が礎石立ちの瓦葺き建築を採用。西の畝傍山、北の耳成山、東の香久山いわゆる大和三山を含めた地域でした。（写真前方は藤原京跡地と耳成山。朱雀大路付近より撮影）



朱雀大路
古代中国の陰陽五行説「四神相応」（東の青龍・南の朱雀・西の白虎・北の玄武）に洩れず南の朱雀大路で幅約200mの大路です。



朝堂院南門址
朱雀門の北170m付近に立つ朝堂院南門と耳成山。（現在の平城京は再現されていますが、藤原京はこれからも無理かな）

結果、天皇と皇族中心の政治が始まり、「日本」「天皇」の号を初めて使用されました。

崩御後、妃であった持統天皇が引継、大津皇子を謀反の罪で追いやり、草壁皇子に譲ろうとしたが早逝したため孫の文徳天皇に譲位しました。併せて飛鳥浄御原令を実施し、694年に藤原京に遷都。文徳天皇が25歳で崩御したため、元明天皇が聖武天皇の中継ぎとして即位し、710年に平城京に遷都しました。

ここまでは、続々と起こる抗争の飛鳥の歴史的経緯を書きましたが、のどかな飛鳥の原風景では考えられない歴史の舞台でありました。

紙面が許さないので端折って書きましたが後は写真で現在の状況を一部紹介させて頂き筆を置きたいと思います。



葛城一言主神社
どんな願いでも一言は必ず聞いていただけるという有難い神社です。日本書紀には、雄略天皇が葛城山に狩りに行ったおり、同じような行列に会い天皇が名を聞くと一言主大神だと答え、天皇は神に拝礼して物品を献上一緒に狩りを楽しみ、神は天皇を麓までおりて見送ったとあります。これは、葛城氏との和解ができたと解釈されてます。



飛鳥宮跡
斉明天皇の飛鳥岡本宮か天武・持統天皇の飛鳥板葺宮・飛鳥浄御原宮に推定されています。まだまだ掘立柱建物の時代でありました。後方の岡は蘇我氏の邸宅があった甘樫丘で、蘇我氏全盛期には宮居を見下ろしていたと思われます。入鹿が討取られ時、蝦夷は邸宅に火をつけ自害した場所でもあります。発掘調査により焼損跡も発見されています。



飛鳥寺　蘇我馬子が聖徳太子とともに物部守屋（物部氏本家）を倒し、596年蘇我馬子が創建した日本最初の仏教寺院。



飛鳥大仏
605年に造立が開始された日本最古の釈迦如来像です。聖徳太子や蘇我馬子も拝顔されたと思うと何故か親しみを感じます。



蘇我入鹿の首塚
寺の西側にある大化改新で暗殺された蘇我入鹿の五輪塔と伝わりますが、後世の鎌倉時代に建立されたと思われます。日本人の心の優しさか、敗者にも畏敬の念を以て祀られています。

その後、用明天皇の同母妹、推古天皇が聖徳太子への承継の橋渡しでありましたが、ここから三頭政治が進みます。推古天皇が長生きしたため、太子に引き継がれることなく崩御。馬子の子蝦夷は、舒明天皇擁立を画策し、孫の入鹿は聖徳太子の子山背大兄王一族を滅亡させ、横暴極めました。

645年、中大兄皇子と中臣鎌足がはかり、皇極天皇の前で殺害し（乙巳の変）、皇極の弟孝徳天皇が皇位について大化改新が始まりました。なにわに遷都するも、唐よりの天皇と百済よりの中大兄皇子と合わず、実権を握っていた中大兄皇子が飛鳥に移ります。

孝徳一人、なにわで崩御したため、皇極が斉明天皇として重祚しました。その後、斉明天皇は百済支援のため、九州に赴いた時に崩御。中大兄皇子が天智天皇となり、百済に遠征軍を送りましたが、白村江の戦いで唐・新羅連合軍敗れ、国防強化を迫られ各地に山城を築き近江に都を移しました。

後に、子の大友皇子（弘文天皇）と弟の天武天皇の間で、676年に壬申の乱が起こり、天武天皇が勝利を治め飛鳥に戻ってきました。